

日時 令和3年7月16日（金）～7月26日（月）

出席者 伊藤学長（議長）

志田、末松、鈴木、高木、二井、眞崎、丸山、向井、横山、渡辺 各学外委員
鶴原、緒方、尾西、今西、西岡、田中、伊佐地、木下 各学内委員

I 審議事項

1. 第4期中期目標・中期計画（素案）について

「資料：審-1、参考1～4」に基づき、書面審議の結果、原案どおり承認された。

<主な意見>

- 地域社会との連携や企業・産業界との一層の協働を計り、学内コンプライアンスの遵守、ガバナンス強化等、積極的な姿勢がよく打ち出されている。
- 県内唯一の国立大学として、各自治体との学官連携の協力体制を築いていただきたい。また、医師、看護師、教員など卒業生の地元での就職が定着するよう環境の整備をお願いしたい。
- 第3期中期目標では、「県内企業への就職率」を評価指標として定め、目標の達成に向け積極的に取り組んでいただいているが、第4期中期目標（素案）では、「県内企業への就職率」について記述がなされていない。第4期中期目標（素案）では、具体的な取組の中に「学生のキャリア支援」をかけた、インターンシップの卒業要件化を継続実施するための協定締結企業数の増加や「三重創生ファンタジスタ」の資格取得者数を増加させることをめざしている。このような取組の成果が、若者の県内定着につながるよう、第3期中期目標に引き続き、「県内企業への就職率」を中期計画の進捗状況を把握するための評価指標として設定していただきたい。
- 文部科学省による素案作成要領には、評価指標に「達成水準を含むこと」と明記されているが、大学による素案にはほとんどの項目で達成水準が記載されていないように思う。すべての計画において、達成水準を記載すべきではないか。
- 大変吟味して作成されているように思う。実行することは大変であるが、今後の低炭素社会の実現、デジタル化（データサイエンス）活用時代を迎え、人材育成の重要性を認識し、大学卒業後、社会に出て活躍できる教育システムを構築していただきたい。
- 「検証可能な評価指標」について非常に具体的かつ数値目標を設定している項目がある一方、実施すべき事項だけを記載しその内容やレベルについてあまり記載のない項目もあるように感じる。「やった、やらなかった」という検証だけではなく、求める効果が得られたかが判断できる指標にした方が良いのではないか。
- 三重創生ファンタジスタの資格について、プログラムを見直し、充実させていくために改善の余地がないか検討できると良いのではないか。また、ファンタジスタ資格を募集要項に掲載する企業数を30社にする→難易度はかなり低いのではないか。ファンタジスタ資格の認知度を上げるというのはどうか。

2. 令和4年度概算要求について

令和4年度概算要求について、「資料：審－2、参考」に基づき、書面審議の結果、原案どおり承認された。

3. 「国立大学法人の機能強化へ向けた国による支援の充実を求める声明」（案）について

「国立大学法人の機能強化へ向けた国による支援の充実を求める声明」（案）について、「資料：審－3、参考」に基づき、書面審議の結果、委員より修正意見があったことから、次回以降の経営協議会で再度審議することとした。

4. その他

なし

II その他

1. 令和2年度決算報告について（6月18日経営協議会質疑回答）

6月18日開催の経営協議会の審議事項「令和2年度決算報告について」において委員から質問のあった事項に対し、「損益計算書における経常利益が前年度より5.8億円の減少になったことの要因」についての回答を書面にて行った。

以上